



天孫神社前に集合した曳山＝大津市京町3丁目、小林一茂撮影

ひきつぐ 2017 大津祭

豪壮

8日の大津祭の本祭は好天に恵まれ、からくり人形が乗った13基の曳山と、56年ぶりに担がれた天孫神社の神輿が大津市中心部を彩った。祭には14万8千人（主催者発表）が訪れた。
（北川サイラ）

ポランティア 大学生ら700人

大津祭曳山連盟などによると、祭りには少なくとも約700人のポランティアがかかわった。約40人は龍谷大の学生たちで同大2年

の玉田遼河さん（21）がとりまとめた。

玉田さんは宮城県富谷市出身。「せっかく宮城から来たので地域の人と交流したい」と昨年、大津祭の曳

き手を経験した。祭の「一体感」に魅了された。



玉田さん

今年7月から祭のピラを配り、ポランティアを募ってきた。この日は曳山を回りながら学生スタッフの体調管理に気を配ったり、運営が円滑に進んでいるのかを確認したりした。玉田さんは「伝統ある祭りに関わって本当に光栄」と話す。来年は再び曳き手として参加したいという。

今年も大津祭は多くの人を魅了した。草津市の大道静子さん（69）は初めて大津祭を見た。「町の人が祭を大切にしている思いが伝わった。曳山とからくり人形の豪華さにも感動した。来年もぜひ来たい」。守山市の高校1年、中山恵梨子さん（16）は毎年祭を見に来ているといい、「大津には素晴らしい伝統が残っている。楽しかった」と笑顔で話した。

2017年10月9日 朝日新聞 提供

障害者はつらつプレー

草津龍谷大生と運動会

知的障害者のスポーツ参加を支援する団体「スペシャルオリンピックス(SO)日本・滋賀」は18日、草津市の県立障害者福祉センターで、龍谷大ボランティア・NPO活動センターと合同運動会を開いた。参加者は障害の有無に関係なく、力を合わせて競技に臨んだ。写真。



障害者と健常者の交流を図る

のが狙いで、学生が中心になって運営した。約80人が参加し、玉入れや借り物競走などを実施。3人1組で1本の棒を抱えて走ったり、旋回したりする「台風の目」という競技では、障害者と学生が声を掛け合ったり、タイミングを合わせるなど見事な連係を見た。SO日本・滋賀の宮崎翔伍さん(19)(野洲市)は「学生と一緒に体を動かし、刺激を受けた」と笑顔。運営に関わった同大2年藤井愛里さん(20)(草津市)も「難しく考えずに楽しむことができた」と話していた。

2017年11月19日 読売新聞 提供

上記新聞以外にも以下のメディアにおいて、本学学生や職員が出演し、ボランティア・NPO活動センターの活動を紹介しました。

日付	マスコミ名	番組名
2018年 2月16日(金)	NHK-FM ラジオ	「おうみi(アイ)」
2018年 4月1日(日)	びわこ放送	「しらしがテレビ」